

ASKプロジェクトにおける DX推進

[2025年改訂版]

2025/12



代表メッセージ



先端技術と人材育成で描くDXの未来像

2019年末に発生し世界的に拡大したCOVID-19は、人々の暮らしや働き方に大きな変化をもたらしました。現在では社会活動も回復基調にあり、対面でのコミュニケーションをはじめ、人間らしい営みが再び重視される一方で、デジタル技術の活用は生活や産業のあらゆる場面に深く定着しています。社会は、デジタルとリアルが相互に補完し合いながら進化を続ける新たな段階へと移行しています。

2018年、経済産業省が発行した「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン」では、DXを『企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企业文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。』と定義されています。また、「第5期科学技術基本計画」において提唱された「Society5.0」は、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、経済発展と社会課題の解決を両立する人間中心の社会像として、現在も日本の技術政策の根幹をなしています。

近年では、AI・データ活用の進展に加え、それらを支える半導体技術の重要性が国際的に高まっています。半導体は、AI、クラウド、IoT、メタバースなどの先端技術の基盤であり、産業競争力や経済安全保障の観点からも不可欠な要素となっています。こうした背景のもと、ソフトウェアとハードウェアの垣根を超えた技術理解と人材育成が、これまで以上に求められています。

弊社は、企業理念および3つのMissionにおいて、「イノベーション」「最先端テクノロジー」「即戦力となりうる人材の育成」を掲げてまいりました。これを踏まえ、ASKプロジェクト全社でのDX推進ビジョンとして、「AI・メタバース・半導体を含む先端技術による課題解決」と「次世代DX人材の育成」を柱に据えております。

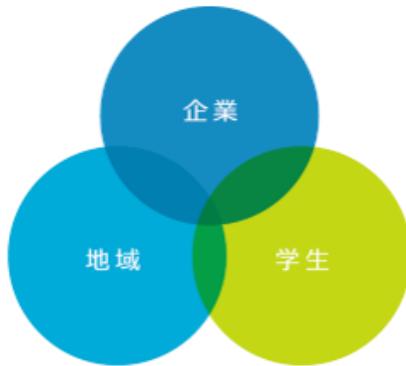
「AI・メタバース・半導体を含む先端技術による課題解決」では、ICTを駆使した業務の自動化・高度化による負荷軽減に加え、メタバース・ゲーミフィケーションを用いた半導体分野を含む先端技術の教育サービスの開発・提供を行うなど、新たな価値創出に取り組んでまいります。「次世代DX人材の育成」では、技術を“使う”だけでなく、“支える基盤”までを俯瞰できる人材、すなわちDX戦略の立案力と先端技術の将来性・持続性を見据える視座、そしてアントレプレナーシップを兼ね備えた実践的技術者の育成を推進いたします。

デジタル化の深化とサイバー・フィジカル・産業基盤の融合が進む中で、弊社の取り組みが社会と産業の持続的発展に貢献できることを願っております。

株式会社ASKプロジェクト
代表取締役 近藤 一輝

企業理念

企業・学生・地域との連携によって
イノベーションを生み出し
地方の星となる企業を目指す



3者により生まれる新しいモノ・コト。
そして未来にはばたく第一歩を。

3つのMission

最先端のテクノロジーを駆使して地域に貢献する

世界最先端テクノロジーを積極的に取り入れ
地域社会の課題解決・発展に貢献する

長期間のインターンシップを通して実践的な人財育成をする

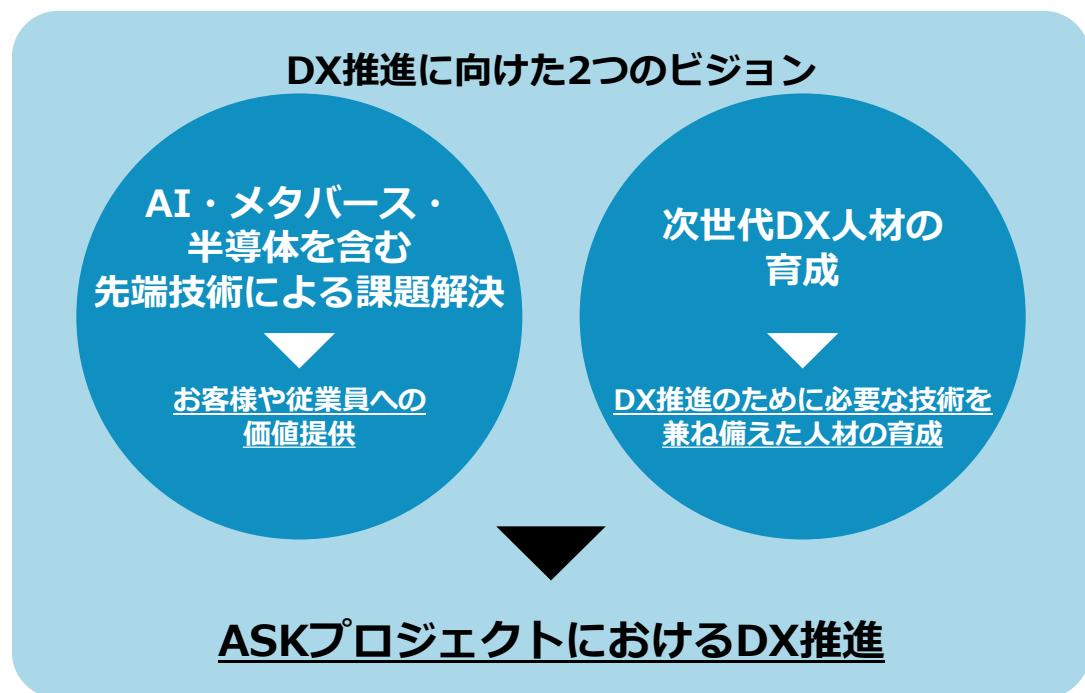
短期のインターンシップでは経験できない実務を経験していただき
より実践的な即戦力となりうる人材を育成する

地元志向の学生が成長し安心して働くことのできる環境を提供する

常に新しい製品を開発し続け
地元で就職したい学生が地元でも働くと思える
親御さんも安心して預けていただけるような
職場環境を提供する

DX推進の基本方針

弊社では、「AI・メタバース・半導体を含む先端技術による課題解決」「DX人材の育成」の2つをDX推進の大きな柱として掲げて、お客様や従業員への価値提供やDX推進のために必要な技術を兼ね備えた人材の育成を、スピード感を持って実行してまいります。



AI・メタバース・半導体を含む先端技術による課題解決

- 自然言語処理や画像解析、技術を活用したサービスの開発・提供を強化
- ダークデータをはじめとする様々なデータ分析サービスの開発・提供を強化
- メタバース・eスポーツ・ゲーミフィケーションを活用した半導体分野を含む先端技術の教育サービスの開発・提供を強化

次世代DX人材の育成

- 「長期インターンシップ制度」および「KITイノベーションラボ」でのDX人材の育成

DX推進の具体の方策と評価指標

AI・メタバース・半導体を含む先端技術による課題解決

▶ 具体の方策

- 自然言語処理の技術を用いた社内問い合わせやコールセンター業務等の負荷軽減や、画像解析技術を用いた分類や計上などの現在人間の目で行っている業務の負荷軽減・効率化に貢献いたします。
- 社内に眠るダークデータ等の分析により、業務プロセスの可視化・効率化に貢献いたします。
- eスポーツ分野における配信等の現場における課題解決や、メタバース・ゲーミフィケーションを活用した半導体分野を含む先端技術の教育に貢献いたします。

▶ 評価指標

弊社が先端技術を駆使して開発したソフトウェアの新規導入企業数を**2028年までに10社**といたします。

次世代DX人材の育成

▶ 具体の方策

地方にある中小企業においてDXを推進しようとした際、下記のような問題が考えられます。

- ・先端技術を理解できる人員が少ない
- ・大手にシステムを外注するような大規模な予算が確保できない

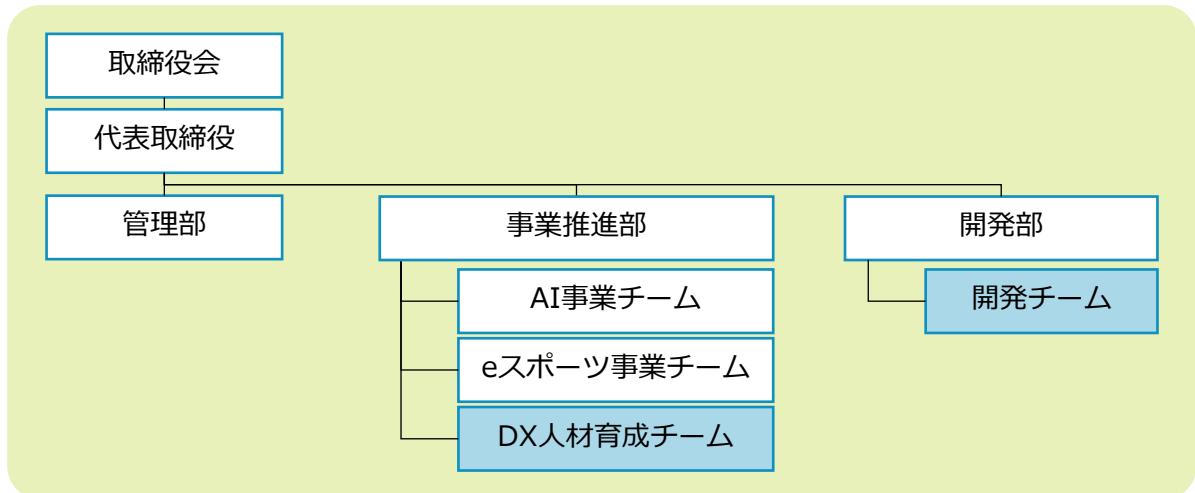
そこで、社内においてDXの戦略・ビジョン・構想などを練ることができる人材を育成し、輩出いたします。

▶ 評価指標

「長期インターンシップ制度」および「ASKイノベーションラボ」において、先進技術の将来性と持続性を想定できるアントレプレナーシップを兼ね備えた実践的技術者を**2028年までに10名輩出**いたします。

DX推進に向けた体制の整備

DX推進に向けた体制の整備として、AI等の先端技術を用いた事業やeスポーツ・ゲーミフィケーション・先端技術の教育を軸に事業を行う「事業推進部」を設置し、事業推進部の案件に対して横断的に開発を行う「開発部」を設置しております。事業推進部には「DX人材育成チーム」、開発部には「開発チーム」を設置しております。



▶ 開発チーム

親会社である木村情報技術株式会社と2016年から締結している「人工知能関連の研究開発業務委託基本契約」をもとに両社の連携をさらに強化し、顧客の潜在的ニーズの掘り起こしや最先端技術の共有、シーズからニーズにつなげるシステム開発を積極的に実施いたします。

また、上記に加えてeスポーツ・ゲーミフィケーション関連のシステムやソフトウェアの開発を実施いたします。

▶ DX人材育成チーム

有明工業高等専門学校地域共同テクノセンターの産学連携における取組み「マッチングラボ」に、弊社と木村情報技術株式会社が2021年1月1日付で共同開設した「KITイノベーションラボ」では、ゲーミフィケーションを用いた半導体・集積回路設計メタバースの制作や教育への応用、高等専門学校生のための半導体教育プラットフォーム「COGAKUSEE」の開発を推進いたします。

また、会社設立当初より実施している「長期インターンシップ制度」において、ビジネススキルやAIに関する知識を実際に業務として習得、実践する環境の整備・改善を継続して実施いたします。

▶ 取締役会

ビジョンの実現に向けて適切に業務が遂行されているかを監督いたします。

DX推進に向けた環境の整備

DX推進に向けた環境の整備として、「迅速な対応が可能な開発環境の整備」「クラウドコンピューティングサービスの利用」「管理部門の業務のシステム化・クラウド化」「リモートワーク環境の整備」の4つを掲げております。

▶ 迅速な対応が可能な開発環境の整備

社内において、AI開発用サーバを複数台導入しており、迅速にAIの開発が可能な環境を整備しております。ハードウェアの進化について継続的に調査を行い、必要に応じた増設やリプレースを実施いたします。

▶ クラウドコンピューティングサービスの利用

クラウドコンピューティングサービスを用いた開発環境も整備しております。また、機械学習の開発に便利なクラウドツール等の継続的な調査・導入検討を実施いたします。

▶ 管理部門の業務のシステム化・クラウド化

人事、総務、経理関連の業務について、システム化・クラウド化を推進し、セキュリティの強化やデータ損失リスクの低減、業務の効率化を図ります。

▶ リモートワーク環境の整備

社内ネットワークの見直しやVPNの整備などをはじめとする、リモートワークが可能な環境の整備を実施いたします。

▶ 業務における生成AIの活用

部署を横断した全社での取り組みとして、各業務における効率化を図るために生成AIを積極的に活用いたします。

SECURITY ACTION 二つ星宣言



弊社では、「情報セキュリティ基本方針」を制定し、SECURITY ACTION 二つ星を宣言しております。



株式会社ASKプロジェクト

〒836-0046
福岡県大牟田市本町1-3-17
Tel・Fax 0944-32-9753
<https://ask-project.net>

